

○ 三上 恵

(日本女子大)

<目的>性被害を隠そうとする社会の中で、本当はどれほどの被害があるのだろうか。被害にあった本人の心の内・被害にあったときの時刻・場所などの状況・周囲の人の対応 公共機関への通報の有無を調査によって明らかにすると共にマスメディアの性に関する報道や法規制とそれに伴う「表現の自由」との関連について意見を求め現状を明らかにし 私たち自身が被害に遭ったときの対処法や、まわりの被害者への対応、今後必要と思われる社会環境の改善、そして、これからのなにをなすべかを考える。

<方法>15歳以上の女性を対象に、アンケート調査をおこなった。

<結果>調査の結果、回答者の77%という多数の女性が何らかの形で性被害を受け、3人に1人という高い割合で12歳以下という低年齢のうちに最初の被害にあっていることがわかった。そのうち、公的機関に通報されたものはごくわずかであった。

マスメディアが性犯罪の増加に影響を与えていると大部分の人が(82%)考えており被害者の低年齢化を不安視し、何らかの規制を必要と感じている。

周囲の性被害に対する正しい認識と姿勢、相談窓口の整備や広報活動、子どもが性被害から自分自身を守れるような予防教育の提供が望まれる。